

国土の気候と地形① (教科書 20~27 ページ)

氏名( )

①教科書 20・21 ページの  ア ~  キ の資料からいくつかを選び、<sup>ちいき</sup>地域によって気候にどのようなちがいがあるかを書きましょう。

使った資料	地域による気候のちがい
【例】アとイ	同じ3月でも、 <sup>おがさわら</sup> 小笠原の海には氷がないが、 <sup>しれとこ</sup> 知床の海には氷がたくさんある。気温がちがうからだと思う。

②上に書いたような気候のちがいが生まれるのは、なぜだと思いますか。

③教科書 22・23 ページを読みながら答えましょう。

○海面を0 mとして測ったときの陸地の高さを  といいます。

○山が集まったところを  といい、山が列のように連なっ

たところを  といいます。

○海に面した平地(平らな土地)を  といい、山に<sup>かこ</sup>囲まれた

平地を  といいます。

○標高の高い土地を**高地**、標高の低い土地を**低地**といいます。

○標高が高いところは低いところよりも、気温が  なります。

④日本の地形はどのような特色があるでしょうか。「山地」「平野」などの言葉を使って表しましょう。

## 国土の気候と地形② (教科書 20~27 ページ)

氏名( )

①教科書 24・25 ページの文章を読んで答えましょう。

○雨や雪のふる量を  といいます。

○日本各地の気候を比べると  や  がちがいます。

同じ地域でも、月によって気温や降水量がちがうため、

(春夏秋冬) の変化が見られます。

○6月から7月にかけて、北海道以外の地域では  があり、

夏から秋にかけては  が多くやってくるので、降水量が多くなります。

○季節によって日本の国土にふく風の方向が変わります。この風を

といいます。季節風と、日本の中央に連なる  のえいきょうで、

冬には  側で雪が多くふり、  側では

かんそう乾燥した晴天せいてんの日が続きます。

②教科書 24 ページのグラフを見て日本各地の気候の特色を書きましょう。

	気温	降水量
<small>とうきょう</small> 東京都 <small>ちよだ</small> 千代田区	夏の気温が高い。	秋に雨が多く、冬は少ない。
<small>ぎふ</small> 岐阜県 <small>しらかわ</small> 白川村		
<small>かごしま</small> 鹿児島県 <small>あまみ</small> 奄美市		
<small>かがわ</small> 香川県 <small>たかまつ</small> 高松市		
<small>ながの</small> 長野県 <small>まつもと</small> 松本市		
<small>ほっかいどう</small> 北海道 <small>わっかない</small> 稚内市		

③これまでの学習を生かして、下の表を完成させよう。

	気候の特色	関係している条件 <small>じょうけん</small>
<small>しれとこ</small> 知床	冬の気温が低い。夏でもすずしい。	北に位置している。
<small>おがさわら</small> 小笠原 <small>しょうとう</small> 諸島		
<small>おくにっこう</small> 奥日光		
<small>しらかわごう</small> 白川郷		
東京		

### 国土の気候と地形③

氏名 ( )

(教科書 20～27 ページ)

- ①教科書 26 ページのように、山脈や山地をマーカーでかいたり、地形や気候の特色をふせんに書いてはったりしましょう。ふせんがなければ、直接書きこみましょう。



- ②日本の気候と地形について、文章にまとめよう。

日本の各地の気候にちがいがあるのは、

からだ。